

平成27年 教育委員会第20回定例会秘密会 会議録

日 時 平成27年11月24日（火）

午後 3 時45分～午後 4 時10分

場 所 教育委員会室

議事日程

第 1 報告

【子ども総務課】

(3) 千代田区まち・ひと・しごと総合戦略（素案）への意見募集

出席委員（4名）

|            |        |
|------------|--------|
| 教育委員長      | 中川 典子  |
| 教育委員長職務代理者 | 古川 紀子  |
| 教育委員       | 金丸 精孝  |
| 教育長        | 島崎 友四郎 |

出席職員（10名）

|               |        |
|---------------|--------|
| 子ども部長         | 保科 彰吾  |
| 教育担当部長        | 小川 賢太郎 |
| 子ども総務課長       | 村木 久人  |
| 副参事（特命担当）     | 大井 良彦  |
| 子ども支援課長       | 中尾 真理子 |
| 子育て推進課長       | 加藤 伸昭  |
| 児童・家庭支援センター所長 | 恩田 浩行  |
| 子ども施設課長       | 小池 正敏  |
| 学務課長          | 伊藤 司   |
| 指導課長          | 杉浦 伸一  |

欠席委員（0名）

欠席職員（0名）

書記（2名）

|      |        |
|------|--------|
| 総務係長 | 久保 俊一  |
| 総務係員 | 田口 有美子 |

中川委員長 | それでは、ただいまから平成27年教育委員会第20回定例会秘密会を開催いたします。

## ◎日程第1 報告

### 子ども総務課

#### (3) 千代田区まち・ひと・しごと総合戦略(素案)への意見募集

中川委員長 第1、報告に入ります。  
子ども総務課長より報告をお願いいたします。

子ども総務課長 それでは、子ども総務課の報告事項、千代田区まち・ひと・しごと総合戦略(素案)への意見募集についてでございます。  
本日ホチキスどめの資料を1点用意してございますので、ご覧いただきたいと思っております。  
こちらにつきましては、国のほうで、平成26年に、まち・ひと・しごと創生法という法律が制定されました。こちらの法律は、現在、少子化が進み、また超高齢化社会が進行していく中で、地方創生によって日本全体が活力ある社会であることを維持していこうとすることを目的とするものでございます。  
資料のほうをおめくりいただきまして、1ページ目、(1)の冒頭でございますように、こちらのまち・ひと・しごと創生法の第10条に基づきまして、国の総合戦略を勘案して、それぞれの自治体でも総合戦略を定めることが、努力義務ではございますが、定められてございます。これに基づきまして、千代田区でも千代田区まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するというのが、こちらの資料の趣旨でございます。  
特にご覧いただきたいのは、2ページ目をおめくりいただきますと、【基本目標1】というところがございます。こちらに、「若い世代の出産・子育ての希望をかなえとともに、安心して働けるようにする」ということで、教育委員会に関連いたします教育、あるいは子育て、こちらに関連するものが基本目標1ということで挙げられてございます。  
具体的な内容といたしましては、この資料でいきますと、4ページから13ページまで、こちらのほうに、ただいまの教育目標1に関する詳細なところが記載されているところでございますので、こちらをご覧いただきたいと思っております。  
こちらの内容につきまして、12月5日から2週間にわたりまして、区民の方々、その他の方々に対し意見公募を行います。その意見をもとに、最終的に年度内にこの戦略をかためまして、決定したいという流れでございます。  
こちらにつきましては、政策形成過程のため非公開との決定をいただいておりますが、意見募集開始後に会議録を公開する手続きをとりたいと考えてございますので、よろしくをお願いいたします。  
ご説明は以上です。

中川委員長 この件に関しまして、ご意見、ご質問がありましたらお願いいたします。  
古川委員。

古川委員 まず、1つ、用語について教えていただきたいんですが、5ページの下

四角、「具体的な事業」の中の延長保育、下のほうなんですけども、丸ボチの、「月ぎめ延長保育」というのは、これはどういったことなのか。

あと、6ページの「良好な保育環境の確保」のあたりで、区立・私立保育園の連携について載っているのですけれども、これは認可保育園までではないんですか。そののくりではなく、広く見たいろいろなタイプの保育所の保育士さんの研修もされているし、あと、それとはまた別に、交流事業をしている私立保育園と区立保育園で、交流事業があるところが6施設となっていますが、ここはこども園と認可保育園ということですか。

子ども総務課長  
古川委員

はい。

では、交流事業において、ほかの保育形態の施設まで広げていくような方向はあるんでしょうか。

子ども支援課長

今、古川委員からご質問のありました3点につきまして、私のほうからご回答させていただきます。

まず、5ページ目の「具体的な事業」ということで、この「延長保育（月ぎめ延長保育）」というのが、いわゆるスポット的な利用ではなくて、要は一月、一月、月極めで延長保育を提供する事業になっております。

さまざまな保育ニーズがある中で、延長保育につきましても、区立だけではなくて、私立もかなり延ばしているところもありますので、そういうところを見ていただければという趣旨で記載しています。

次に、6ページ目の「就学前教育推進等に向けた区立・私立園の連携強化」というところで、既にご案内のとおり、本区におきましては就学前プログラムというものを策定いたしまして、区立だけではなくて、私立、それも認可だけではなくて、認証保育所も含めて、就学前の子どもに対する教育を推進していこうというのが、この就学前プログラムの目的でございます。

その中で、やはり区立基幹園、区立保育園それからこども園とございますけれども、そこと私立の認証も含めた連携や強化を図っていく中で、例えば子どもたちの交流もそうですし、合同子ども会等も開催しております。そのような状況も含めまして、就学前の児童に対してこのようなプログラムを実施していくというところで、区立の蓄積したノウハウ等を私立のほうにも提供していくという、そういう趣旨の中で具体的な事業として挙げさせていただいております。

次の最後の7ページ目の「私立保育所と連携・交流事業を実施している区立保育園・こども園」、今お話しさせていただきました区立保育園は4園、それからこども園は2園ございますが、そちらのやはり年長同士の交流事業のほか、園庭を貸し出したりとか、そういう事業を実施している園ということで、6施設。こちらは園の数は変わらないので、継続的にこの6施設で実施事業を実施するのですが、その事業の中身、交流事業の中身についてはまだまだ工夫の余地があるのかなということで、こちらに記載させていただいているところでございます。

古川委員

わかりました。ありがとうございます。

中川委員長  
金丸委員

いかがですか。

十分に読んでいないので誤解があるかもしれないのですが、要するに、この「まち・ひと・しごとの創生」ということを考えたときに、全体の枠組みとして、子どもを保育園に入れるために千代田区に入ってくる人たちもいますけれども、区内に住んでいた若い人たちが、区外に転出する場合もあるじゃないですか。外に出た人が、また戻ってくるというサイクルをつくっていかないと、今の人口体系がそのまま、年齢が上に上がってきて下の世代はなくなってしまう危険性がある。そういう意味で、創生ということを見ると、例えば今、現実的に千代田区で仕事をされている中心的な人物が年をとって死を迎えた後に、その息子や孫の世代がその家に戻ってくるような、そういうシステムを考える必要があるんだろうと思うんですね。そういうことが、これにうまく載っているのかなという疑問がありました。

中川委員長  
教 育 長

そうですね。

どうぞ。

この総合戦略を策定する前提として、国勢調査人口をベースとして、50年先の人口ビジョンを想定した上で、この計画は、平成27年度から平成32年度までの5年計画になっています。その人口ビジョンの中では、かなりいろんなところが読み取れる数値になっていて、今後もしばらくの間、人口が増え続けるという想定になっています。

ただ、その将来的な予想も、基本的には、今年度から実施していますちよだみらいプロジェクトの趨勢人口的な動態と大きく変わるものではありません。その人口推計によると、幼少年人口もこれから10年ぐらいは増加し続ける。それから、全体の区民の人口も増加し続ける。さらに、高齢者人口の比率が徐々に高まっていくという推計になっています。

今後、将来的な施策を考えていくに当たっては、幼少年人口の推移ですとか、あるいは高齢者率の増加傾向ですとか、そういったことを踏まえて、さらなる施策の検討が必要だという認識は持っているところです。

ただ、今後5年間につきましては、基本的には、ちよだみらいプロジェクトの方針をほぼそのまま実施し、施策化していく中で対応するという意味合いになっています。

この2ページのところで、特に総合戦略全体の中では、基本目標1、2、3を定めていて、1は若い世代の出産・子育ての希望をかなえるという子育て推進、さらに、2つ目が豊かな地域社会形成ということで、住環境ですとか、あるいは高齢者の生きがい活動、それから防災とかそういう位置づけで、3番目が国の計画策定の方針の千代田区なりの視点を踏まえた地方との連携という位置づけになっています。

基本的には、千代田区は、今後5年間はこの柱で行って、その後については、また人口推計等も踏まえて施策を検討し直すことが必要という認識を持っています。

それから、3ページの(4)のところの重要業績評価指標というKPIと

いう指標がありますけれども、この戦略の中では、このKPIという指標を、それぞれの施策ごとに設定して、達成度を評価していくということが1つの特徴になっているといったところでございます。

金丸委員

よろしいでしょうか。今、教育長のおっしゃったとおりだろうと思うんですけども、私の言いたいのは、それとは少し外れていて、要するに、今、千代田区の学校で学んでいる子どもたち、区内の子もいれば、区域外の子もいますけど、そういう子たちが千代田区のファンになる、ファンになって、将来大人になったときに千代田区に帰ってきたいという、そういう雰囲気醸成していくのも、また、この計画の1つになってしかるべきではないかなという趣旨で申し上げた次第です。

中川委員長

このまち・ひと・しごと創生という、戦略は戦略なんですけど、今、金丸委員もおっしゃっていましたが、千代田区に帰ってきたいではなくて、ずっと千代田区を愛して、千代田区のために子どもたちも何かができるとか、そういう総合的な千代田区像というのが欲しいなと思いました。

ですので、ずっと読んでいましたときに、ここの初めのほうの子育ての部分に関しては、もう千代田区で随分やっていることが書いてあるなと私は思ったので、読み流したというか、今やっていることじゃないかと思ったんです。

逆に、その後の、豊かな地域コミュニティが息づくまちとか、それから、地方との連携をどうするかということ、もう少し具体的にしてほしいというのを、これを読んでいてすごく感じたんです。逆に、そちらで少し言いたいと思うことが幾つかあったのですが、そういうのは、5日から意見募集が始まりますよね。そこで言ったほうがいいのでしょうか。

子ども総務課長

この場で言うのであれば、私のほうから計画を担当している部署に、教育委員会からの意見ということで、申し伝えます。

中川委員長

1つ1つは立派なことをやりますということは書いてあるのですが、それに住民がどう参加するかということが全然見えてこなくて、例えば、地方との連携というところも、22ページで大事だなと思ったのは、「区の集客力とか情報発信力を生かし、場の提供を求める地方都市との連携を深め」や「ちよだフードバレーネットワーク、アンテナショップなどを開設する」の2点と、それから、「災害時における総合援助協定に基づき、物資の提供や人的支援を行う」というのがありますけれども、これをどのようにやっていくのかということがすごく大事になってくると思うんです。

その下に「住民交流助成」というところがありますけど、例えばこれにしても、「商店街・町会・観光協会による連携」というのがありますけれど、これも商店街なら商店街、町会なら町会、観光協会ならということで、地方と本当に交流しているかということが見えてこないんですよね。そういうのを、こういう書き方ではなくて、できないものかなと思います。

例えば、まちみらい千代田で、こういうまちづくりをやりたいという、いろいろな案を公募して、助成をするという「千代田まちづくりサポート助

成」をやっているんですけども、例えば商店街などのアイデアも、商店街自身がやるとかというよりも、もう少し広く人を巻き込んで、これはいいというのを、違う人が判断するような仕組みができないかなと思うんです。

あと、「地方との連携による森林整備事業」というのもありますが、これも、ただ一部の人だけが知っていて、こういうことを本当にやりたいんだったらば、子どもたちに森林のことを勉強させるなりして、実際に動かせるということまで含めて、何かできることをやっていったらいいのではないかなと思うんです。

なぜそういうことをあれするかというと、手前みそになるかもしれないのですが、「ひがた探検」というのをやったときに、あれは干潟に行くだけではなくて、小櫃川という川があって、その一番上に一滴の水が湧いているところがあって、そこからだんだん水がたまってきて、小櫃川という川ができて、下に行くと干潟ができると。そういうことを、全部を子どもたちに体験させたいということで始めたんです。そこで千葉の人たちとも交流ができましたし、子どもたちを巻き込むならば、そういうことも考えていくほうがいいかなと。子どもだけではなくて大人もそうですが。

孺恋の森づくりとか、農業体験などもやっているみたいですけど、どうも一部の人だけでやっているような感じなので。千代田区というまちで、できる感じをつくっていくようにしないと発展しないのではないかなと思っています。

あと、例えば、27ページに「文化芸術の秋フェスティバル」をやっているということが書いてありますが、まち全体がそういうフェスティバルをやっているという意識が持てるような仕掛けをつくることをしなければいけないのではないかなと思っています。

ミュージアムだっていっぱいあるけれども、例えばパスポートをつくって、みんなが参加しやすいようにするとか、いろいろあると思うんです。そういう、全部が、例えば商店街だけのイベントじゃなくて、それとミュージアムが結びつくとか、大きな立場からものを見てくれるところがあったらいいな、それがみらいプロジェクトになるのではないかなと思いましたので。

この中で、都市のあり方とか地方のあり方とか、それからまちの魅力ということをもう少し出してほしいなと思いました。

子ども総務課長

今、委員長からご意見をいただきましたので、こちらの総合戦略の中で、どういう形でということとはわかりませんが、こういった意見があったということは申し伝えたいと思います。また、その結果につきましても、また何らかの形でご回答させていただきますので、よろしく願いいたします。

金丸委員

よろしいでしょうか。これを読ませていただいて、間違っているとは思っていないし、正しいことが書いてあって、非常に集約してあるからこういう文章になったと思うんですけども。

例えば、20ページで、「地方との連携を推進し、区の魅力と活力を高め発信する」と書いてあるけれども。これが、例えば連携をしたらどういう形で

区の魅力を発信することにつながるのかとか、具体性を少し入れていただくと、区民が読んだときに、「ああ、そうか」とわかる気がするんです。

事業だけをこう並べても、「ああ、そんなのやっているの」で終わってしまうと思うんです。だから、目標はこうだと、その目標というのはどういうことにつながっていて、そこの中に何があるかということ、多分委員長のおっしゃっていることも同じようなことだと思うんですけども、出してもらえると、区民が読んだときに、「ああ、そうか」と、気持ちが落ちつく、そういうものになりそうな気がいたします。

中川委員長 ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

中川委員長 12月5日号でパブリックコメントを募集するということですね。

子ども総務課長 はい。

中川委員長 わかりました。

では、これで本日の日程は全て終了しました。本日の秘密会を閉会いたします。